

高等学校

役割交換てがみ

○目標となる資質・能力

自尊感情・自己効力感、思いやり・他者理解

○指導のねらい

人の立場になって自分への手紙を書くことで、他者の立場になって物事を捉えたり、自己洞察を深めたりし、自尊感情や思いやりを育む

○準備するもの

ワークシート×生徒数、便せん・封筒×生徒数

○教育課程、実施時期

特別活動、学期の終わり頃や行事の直後

○留意点など

授業内容を予め伝えておき、差出人や書く内容をある程度考えさせておくこと

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の目標を知り、学習の見通しを持つ 自分への手紙を書こう	・自分に向き合えるように、落ち着いた雰囲気をつくる
展開 35分	2 役割交換てがみの説明を聞く 3 差出人を決定する 4 自分への手紙を書く	・手紙の書き方の説明をする ・ワークシートの1、2に従って思いを深めさせる ・差出人は自分以外 ・書いた手紙は封筒に入れ宛名を書かせる
まとめ 10分	5 本時の学習を振り返り、感想を書く	・ワークシートの3を書かせる

参考

○「役割交換てがみの説明を聞く」について

手紙の書き方の説明する。他者の目を通して自分がどのように見えているかを考えることによって、自己理解を深め、他者に対する関心を高める活動であることを伝える。本当に相手がそう思っていたら正解というのではなく、相手の思いを考えることそのものが重要であることを伝える。

○「差出人を決定する」について

ワークシートの1と2を順に書かせる。行事の振り返り等で行う場合には、ワークシートの(1)と(5)の「普段から～」を「この行事で～」と修正して行わせるとよい。この作業を行う過程で他者への思いを巡らせ、他者の言葉による自分へのメッセージを考えさせる。ここで集中して自己洞察できるように、導入で落ち着いた雰囲気を作っておくことが大切である。

○「自分への手紙を書く」について

静かな雰囲気の中で書かせる。文章の質や量よりも、イメージした相手の目線になっているか、その人の目線を介した自己洞察が表現されているかがポイントであることを伝える。書き終わったら封筒に入れ、宛名（自分の名前）を書かせる。宛名に「〇〇様」のようにあえて「様」をつけると、他人の立場になりやすい。手紙は自分でポストに投函させてもよいが、教師が回収して、郵送したり、しばらく時間が経ったあと（修了式や卒業式など）に手渡したり、本人がその手紙を開くときの思いを考慮して渡し方を工夫するとよい。

○「本時の学習を振り返り、感想を書く」について

自分宛ての手紙を書くことによって、差出人への思いが深まる。普段自分を叱咤激励してくれている差出人の言葉の裏にある意味を素直に確かめ、感謝の気持ちが湧き出したり、大切にされていることを実感できたりする。このような心の動きを感想に表現できていれば、本時のねらいは達成できたと言える。

資料

参考文献 「心の健康教育プログラム」

役割交換てがみ

年 組 番 名前：

1 次の(1)～(8)について書いてみましょう

- (1) 普段からよく励ましてくれたり、褒めてくれたりしているのはだれでしょう
- (2) どんな言葉をかけてくれますか
- (3) それを聞いてどう思いますか
- (4) どんな思いでその言葉をかけてくれたのでしょうか

- (5) 普段からよく叱ってくれたり、注意してくれたりしているのは誰でしょう
- (6) 具体的にどんな言葉をかけてくれましたか
- (7) それを聞いてあなたはどう思いましたか
- (8) どんな思いでその言葉をかけてくれたのでしょうか

2 差出人は誰ですか？ またその理由は？

3 手紙を書いた感想を書いてみましょう